

## Jodo Shu Peace Association

浄土宗平和協会(JPA、荻野順雄理事長)は本年度、浄土宗の平和団体として平和・共生社会実現のため、活動の四つの柱「ブック・ギフト」、「NGO支援・緊急支援」、「浄土宗平和賞」、「スタディーツアー」を行い、宗内外から反響を呼んだ。また本年は専門委員会を組織し、名実ともに公益に資する団体として、会則と会計方法の見直しが進行し、来年度総会までに改正作業が進んでいる。

### 異宗教理解の現場へ

都内の大学に通う私費留学生に希望の本を授与するブック・ギフトin Tokyo は11月29日、大本山増上寺で書籍授与式を行い、東京大学、武蔵野大学、立教大学、駒澤大学、慶応義塾大学、早稲田大学など42人の私費留学生に希望の本を手渡した。会場には、円高で苦勞しながら勉学に励む学生たちのすがすがしい笑顔があふれた。浄平協は、会員の協力を得て、来年度以降、東京だけでなく、関西地区などにこの活動を広めていく。

NGO支援の現場や異宗教対話のためのスタディーツアーは、本年度ローマ・バチカンを訪れ、ローマ法王に謁見するなどのプログラムで、11月、募集を行ったところ、わずか一週間で定員を越すという人気となった。来年2月23日から8日間の日程で宮林昭彦浄平協副総裁(大本山光明寺法主台下)を代表に40人を越す会員らが、ローマを訪れる。

## 事業・組織共に活性化 名実ともに公益に 寄与する団体へ

### 大地震発生後すぐ 支援金を手渡す

9月30日に発生したインドネシア・スマトラ島沖大地震に対して、早くも10月9日には全日本仏教会一世界仏教徒連盟を通じ、緊急支援を行った。同時に全国の浄土宗寺院に緊急募金を行ったところ、268万円(12月3日現在)を越す浄財が寄せられた。

社会参加する寺院を顕彰する浄土宗平和賞は、本年度副賞を50万円に増額し、いよいよ2月末まで会員や教区に対し、推薦募集が始まる。来年3月に選考委員会(委員長・熊岡路矢東京大学特任教授)を行い、第2回の受賞者が決定する。

さらに10月7日、浄平協と浄土宗保育協会、浄土宗児童教化連盟の3団体が連絡会議を初めて開催し、3団体による「共生子ども連絡会議」設立について合意した。来年度、浄土宗の二つの公益教化事業団体と浄平協が連携を取り、共同事業などに乗り出す。

増上寺大殿で荻野JPA理事長より希望図書を受け取る留学生・鐘雪根さん(東京大学)



## 共に平和を希求する礎に ～第2回ブックギフト、42名に希望図書を贈呈～



希望する本を受け取る留学生たち(増上寺会館にて)

浄土宗平和協会(荻野順雄理事長)が行う私費留学生希望図書支援事業第2回ブック・ギフトin Tokyoの書籍授与式は、11月29日に大本山増上寺(東京都港区)で行われ、6カ国42人が「あなたにとって平和とは」と題した課題作文を提出、希望の本を、受領した。

ブック・ギフト活動は、東京で近年の円高に苦勞して勉学に励む世界の私費留学生に対し、1万円以内の希望する書籍を贈呈し、相互的な国際理解を深め、ひいては共生社会の実現のために行う浄平協の企画。この日は、増上寺大殿に武蔵野大学8人、東京大学7人、立教大学4人、慶應義塾大学、駒澤大学各3人、一橋大学、早稲田大学各2人など都内の大学で学ぶ留学生があつまり、大殿で荻野理事長が、学生代表の鐘雪根さん(東京大学大学院)に希望の本を手渡した。

儀式終了後、増上寺会館でJPA事務局より、希望する本をそれぞれ手渡され、すがすがしい留学生の笑顔が、会場にあふれた。

### 平等と調和

瀋 陽(中国・東京大学)

平和といったら戦争が思い浮かぶ。言葉の意味がわからないときは、人間はいつも反対の意味を思い浮かばせ、その空白を補填しているらしい。ではいったい平和とはなにか？

中国が戦争で苦しんでいたのは、半世紀以上前のことだった。よく学校で「君らの世代は平和の世に生まれて、それを大切にしなければならない！」と言われてきたが、平和は当たり前で、どのように大切にすることはイメージできなかった。

でも、本当にこの世界は平和なのだろうか？ 中東やアフリカは戦火を浴

びている。東南アジアには暴動が起きている。北朝鮮のミサイルに世界が神経を尖らせている。中国は民族問題でたくさんの人が血を流している。そればかりではない。何千万、何億人の人々が、飢餓、貧困、汚染、差別の中で生きている。この憂いはただの悲観ではなく事実である。世界は決して平和ではない。それどころか、見渡す限り、至るところで苦難で煙っているのだ！

これらの問題を突き詰めると、平和の意味が見出せるかもしれない。平和とは「平等と調和」ではないだろうか？ 世界の国々は「天賦人權」の平等をかつてから訴えてきた。しかし、資源や市場を奪い合うために、発展途上国の労働力を酷使し、資源の略奪をしてきた。それでは平等が得られない。この世界はだんだん金銭と権力で汚されていて、人間は本来の自分を失いつつある。

相手は自分と同じ人間であるをついつい忘れて、地位と富で人間をランク付けしてしまいがちだ。すべてのことの背後には理由がある。戦争を食い止めることは決してたやすいことではない。しかし、私たちが身の回りからできることがある。心から相手のことを尊重し、相手になりかわって物事を考えることだ。

例えば、同じマンションに住んでいる外国人の住民に声をかけてみてはいかがだろうか？ ボランティア活動に参加し、国際活動でお互いへの理解を深めてはどうだろうか？ 出身国や外見で人を分けることなく、一人ひとりが同じ人間だから、同じような扱いをすべきではなからうか？ このような平等によって、信頼関係が築き上げられ、調和な世界になっていく。

それは平和の前提であり、私たちが目指す世界でもあるでしょう！

### 人類愛を持つこと

Zorigt Azzaya(モンゴル・日本教育大学院大学)

平和とは何でしょうか。「戦争がないこと、一日一日を幸せに安全に過ごすことだ」と皆答えるでしょう。誰でも、戦争がないこと、平和な世界で生きていきたいと思っています。しかし、世界のどこかで戦争が起こっています。いまでも、この瞬間にも世界のどこかで戦争のために多くの人々が殺されて、人々の心が傷ついています。また、多くの血や涙が流れています。

ある人々は「戦争のないところで生きていて良かった」と思い、安心していてもいいと思いませんか。それでいいのでしょうか。自分自身の周囲だけ平和だったらいいのでしょうか。だめだと思えます。今、私たちは世界のどこも平和になるように考えなければならぬ時期だと思えます。では、どうしたら世界が平和になるのでしょうか。

まずは人々が自分から行動を始めることです。平和とは、国と国の間だけ

ではなく、人々の心の中にあるものからです。多くの人々が平和を願っているのに、平和な世界が実現できていないのは、自分ではない誰かが何とかしてくれると思っているからです。

ですから、私たち一人ひとりがお互いを尊重し、思いやり、わかり合おうとする姿勢を自分から持つことが大切だと思います。また、戦争を体験された人々の想い、苦しみ、悲しみを後世に伝えることです。戦争の怖さ、痛みを考えさせることだと思います。後世の人々はその想いをしっかり受け止め、また次の世代へ伝えていくことです。それがみんなに行き届いたら世界中平和になると思います。

次に戦争はいつでも起こりやすくて、危ないものだと考え、気をつけることです。戦争と言われると多くの人々が過去のことと思っているでしょう。しかし、今日したことが積み重なって戦争が始まるきっかけになるかもしれないのです。

最後に、人類愛を持つことです。悪い人でも、善い人でも、愛が欲しくない人は世界に一人もいません。一人ひとりがお互いに愛しあっていたら、人

第2回のブックギフト事業も成功裏に終え、浄平協という存在が広く知られるところとなりました。

小林正道副理事長から、新生・浄平協となつての活動についてお聞きしました。

●

新生・浄平協は、会員制となつて本格的に公益団体として活動、従来の募金活動、NGO支援に加え、ブックギフト、浄土宗平和賞と新事業を創設するに至りました。

ブックギフトの授与式に臨む留学生のみなさんの声を聞くと、我が国の文化や仏教に対する暖かなまなざし、理解したいという姿勢を感じます。また我々にとっても、異文化の視点からの意見に気づかされることも多く、応募の条件となっている小論文は、1冊にまと

めて出版したいと思うほどです。この交流を積み重ねることが、浄平協の目指す「平和、共生」につながっていくのでしょう。

浄土宗平和賞も、実施にあたっては、スタッフに苦勞もありましたが、多くの応募があり、昨年度の第1回目を無事終えることができました。地域貢献活動を行う宗内の寺院、教師の姿に希望を感じると共に、新たな寺院モデルを考える契機にもなることでしょう。

浄平協の活動は、世界仏教徒連盟(WFB)、全日本仏教会からも高く評価されており、WFBからはマンマーサイクロン災害救援などの活動に対し、今年表彰を受けました。

宗内の他公益団体との連携、滋賀教区支部の設立など、平和を願う「輪」が広がりつつあります。現状に甘んずることなく、恒久平和実現のために、多くの方々と共に、事業を紡いでいくことを願います。

#### ブック・ギフトで私費留学生に提供した書籍の一部(例)

有斐閣法律用語辞典、事典・昭和戦後期の日本一占領と改革一、古典建築事典、大辞林・第三版、日本語表現辞典、教師と学習者のための日本語文型辞典、街の達人コンパクトでっか字東京23区便利情報地図、自立と共生の心を育てる小集団学習、マーケティングの科学POSデータの解析(シリーズ予測と発見の科学)、図説 都市と建築の近代一プレ・モダニズムの都市改造、実力アップ日本語能力試験1級 読解編、日本帝国を巡る人口移動の国際社会学、新版日本語教育辞典、スワップ取引のすべて第3版、The State Of The World ロイター写真集 揺れ動く世界、露和辞典・携帯版、日本の外国人労働力、中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック、連結財務諸表の会計実務、《よく分かるEXCEL2007 基礎/応用セット》、DAIDO MORIYAMA「Buenos Aires」、世界自然遺産ヨーロッパ1/ヨーロッパ2 ブルーレイ版 ユネスコ共同制作、遺伝子工学キーワードブック改訂第2版、バイオ実験イラストレイテッド⑤タンパクなんてこわくない、ウィリアム臨床産科マニュアル、USCPA集中講義ビジネス環境および諸概念、日本語教育能力検定試験に合格するための記述問題50、異文化理解のストラテジー50の文化的トピックを視点にして、ロングマン TOEFLテストiBT完全CD-ROMバック入門編、商業史概論、擬音語・擬態語4500 日本語オノマトペ辞典、ミト・エリカの催眠療法入門、nakata.net06-08、みんなの日本語初級I携帯用絵教材、英語論文表現例集一すぐに使える5800の文例、中国語における装飾の様相、新・証券投資論I 理論篇、英文履歴書の書き方<Ver.2.0>、猫とロボットとモーツァルト哲学論集

と人の関係も、国と国の関係も良いものになっていくでしょう。これらのことを一人ひとりが心に留めて行動し続けられれば、いつか平和な世界が実現し、永遠に続くと思っています。

### 残酷な戦争

Su Hlaing Win (ミャンマー・武蔵野大学)

私にとって平和とは戦いがなく、人々は自分の国のため、自分の経営のため、自分の地位のため、いろいろな方法で戦っています。自分の利益だけ考えずにお互い助け合えば戦うこともないでしょう。

ミャンマーの仏教徒として、瞑想することも心の平和の一つだと考えます。瞑想することによって、欲も少なく、悪いことをすることも少なくなると思っています。大事なものはもちろん心が平和になることだと思います。心が平和になれば、自分から攻撃することがないと思えます。

もちろん、自分の心が平和になっても、世界のいろいろなところで戦争が起きたら、普通に暮らすことがで

きなく、何一つもする事ができなくなり、残酷なことがばかり起こると思います。今の世界では平和になるように世界の人々が頑張っているけれども、あちらこちらで戦争はまだまた続いています。

2001.9.11ニューヨークの世界貿易センター北館と南館に飛行機が突入した同時多発テロ事件。その後、米英軍は大量破壊兵器を雨あられと落とし、膨大な人々を殺し傷つけ、家財を破壊しました。

西アフリカのシエラオネはダイヤモンド産業のため、戦争が起こって20歳くらいの青年が誘拐されて、無理やり戦わせられる兵士になってしまいました。子どもは訓練されてスパイ役にさせられ、戦闘の最前線に送り込まれました。子ども兵士は戦闘マシンになってしまいました。

平和の逆、戦争は残酷なもので、戦争のせいで両親や親友を失っています。だからこそ、この世が平和になることを、みんなが望んでいるのだと思えます。

### 生きていることに感謝

洪 ボム (韓国・早稲田大学)

今回のテーマが「私にとって」の平和であるので、少し違う角度から平和について考えてみた。

私は時々、「平和」ということばに違和感を覚えることがある。適切な説明は難しいが、いわゆる本来の「平和」と世間で認識される「平和」の間に見えない壁が立てられているように思われる。それは「平和」という表現が持つ矛盾を指すことであるかもしれない。

私にとって「平和」とは、日常そのものである。日常そのもの、つまり私という人間の「喜怒哀楽」すべてを含

め、特に変わらない毎日が繰り返されることこそが「平和」であると思っているわけである。ここで私が表したいことは要するに「平和」ということ自体に重くて深い意味を与える必要はないということである。

こういう言い方だと私は「平和」に良い印象を持っていないと思われるかもしれませんが、決してそうではないこともきちんと書いておきたい。「平和」に深い意味を与えないこと、そしてその代わりに、常に自分のすぐそばに存在すると認識することがとても大事だということである。「平和」も「幸せ」のように遠くにあつて特別な存在ではない。

世界のいろいろな所では、この瞬間も「平和」を理由にして、終わらない戦いが続いている。新聞やニュースなど各種マスメディアで「平和のための戦争」といったことばが出てくる度に、これほどばかげた話はないと思ってしまう。いったい誰のための戦争であり、平和であるのだろうか。なぜ人間は力で「平和」にしようとするのか。時には、まるで「平和」を証明するためにわざと「そうではない」状態を仕込むような印象さえ受ける。そもそも人間の力で無理やり保たれた「平和」を本当の「平和」と呼べるだろうか。

このように考えると私たち人間が「平和」という物事にどれほど執着し、重みを持っているのかが垣間見られる。

人間が「平和」を祈るのは当然のことである。それには性別も年齢も人種も関係ない。しかし「平和」が大切であるからといって特別だと思える必要はない。考え方によっては同じ状況が平和にもなり、そうでもないものにもなる。したがって「平和」という定められた概念にこだわらずに、日常そのものに価値を与えながら「生きていること」を感謝することこそが自分にとつ

ての最高の「平和」であるのではないだろうか。

### 互いの価値を認め合う

姜 侖材 (韓国・立教大学)

私にとって平和とは、人々が他人一人ひとりの価値を認めることだと思います。小さな子どもたちの単なる争いや、数千万人を不幸にさせる戦争まで、すべての争いは、他人の価値を認めないことから始まります。それは人間の今までの歴史から語られますし、今世界どこかにはその争いでたくさんの人たちが死んでいきます。

もともと、社会的性格を持った人間は昔から集団を作って行動してきました。そして、その集団はどんどん大きくなって国となり、世界各地で生まれた国々は、お互い領域を広げるために争いながらもっと大きな「国家」としての成長を目指してきました。その後、自分たちと文化が違う、宗教が違う、肌の色が違うという理由などで人間は戦争の歴史を繰り返しています。

その中で、宗教はその理念とは違って戦争の道具として使われてきました。人々の「愛」を重視したその理念は人によって間違っただけで、戦いの道具化とされてしまったのです。

昔、中世ヨーロッパの“80年戦争”や“30年戦争”、また今も続いているイスラエルとアラブ諸国の紛争はその代表的な例です。それは一人ひとりからつくられた集団が、他の集団の価値を認めないため起きた悲惨な事件でした。

仏教では、自分一人の修行を重視し、自分自身を見つめることによって、誰でも仏さまになれるという教えがあります。それは、けっして自分一人の安易を求めるといった教えではありません。本当の自分を理解するからこそ他



ブックギフト授与式——増上寺大蔵で、法要に参加する留学生たち

人を理解することができるということです。実際に仏さまは人を愛する「情け」の生涯を生きました。

現代社会はグローバル社会とも呼ばれ、国との交流やインターネットなどにより、その境界はどんどん薄くなっています。そして個人が受け取る情報や文化も増えてきています。それによって、世界はもっと混沌な状態に落ちてしまうという心配もありますが、これは長い歴史の間、試行錯誤を重ねてきた人間にとって、平和な世界を進める機会であると思えます。

お互いに価値を認めることから、平和の世界が始まるからです。

### 平和とは……

劉 恋 (中国・武蔵野大学)

平和とは、お母さんを見て、赤ちゃんの口から出てくるママという声です。その声の中に、生まれてから守ってくれていた、一番親しい人への信頼感を含んでいると感じます。

平和とは、子どもたちの笑顔です。その笑顔は、仲間と一緒にけん玉をして、うまくできた後の喜びかもしれません。あるいは、自分の夢を聞かれて、美しい未来に希望を持って、思わず微笑んでしまうのかもしれない。

平和とは、中学校で運動会で転んだ時、目の前に差し出された心を温めてくれた手です。その手は、隣のクラス

のいつも喧嘩する男の子の手かもしれません。それとも、お世話になっている先生の広い手かな。

平和とは、大学の卒業式で、学長先生から渡された卒業証書です。そこから、自分の新しい人生を創りたいという闘志がみなぎっています。

平和とは、中年になって、おだやかな家庭があるということです。好きな人と一緒に、かわいい子どもを育て、両親に孝行する平和な家庭は、誰でも一番ほしいのではないのでしょうか。

平和とは、年を取って、ゆったりとタバコをふかしているお父さんの表情です。安らかに、白髪の生えるまで一緒に暮らしているつれあいで、昔の思い出に思いを巡らせ、お父さんはいつもにこにこして、うなずきます。たぶん、その時はおだやかに平和な心かなと思えます。

平和とはいったいどういうものなのか。人にはそれぞれかもしれませんが、とにかく私にとって平和とは以上のようなものです。あまり抽象的なものではないですけど、おだやかな気持ち、また、幸せな感じといった方がいいと思います。

その平和は、単純に戦争と反対する意味、そんなに簡単ではなく、心の平和だと思います。心の平和を守って、心の中に素晴らしい未来を期待すれば、悲しみはなくなります。

このようにして、平和な国、平和な世界はつくられていくのでしょうか。

### ブック・ギフト in Tokyo 贈呈内容

- 図書贈呈者総数 42人 (男性19人、女性23人) ※うち第1回ブックギフト応募者9人
- 図書贈呈者総数 40人 (贈呈式欠席のため)
- 応募者国別一覧 中国25人、韓国9人、台湾5人、ミャンマー、ネパール、モンゴル各1人
- 応募者大学別一覧 武蔵野大学8人、東京大学7人、立教大学4人、慶應義塾大学、駒澤大学各3人、一橋大学、早稲田大学、東京学芸大学、東京農業大学 各2人、東京芸術大学、日本教育大学院大学、学習院大学、立正大学、順天堂大学、明治学院大学、青山学院大学、お茶の水女子大学、明治大学各1人
- 応募者在籍一覧 学部生15人、大学院生25人、研究生2人

# 「第2回浄土宗平和賞」×切り迫る ～2月末×切り、副賞50万円に～

戦後の高度成長時代を経て日本の社会は大きく変化を遂げてきました。都市化、産業化、大衆化の波は共同体や家族の崩壊をもたらし、地域社会の同質性から異質的なものへの変化は数々の社会問題を引き起こしています。

檀家制度のもと「いえ」や「むら」という共同体の中に、寺院や仏教が機能していたかつてのシステムはもはや終焉しつつあるように思います。このような状況に地縁・血縁を基とした伝統的寺院のあり方に加え、「むら」や「いえ」を超え、分断化された個人の共存する地域コミュニティの再構築、共同体の回復の核となる役割も期待されています。

浄土宗平和協会は「共生」の理念を基に、公益に資する未来の寺院のあり方を模索し、一切の生きとし生けるものの安穏と平和を願う仏教者として「社会参加する仏教」を推進しています。

## ◆賞の内容

賞状・副賞(50万円)

## ◆表彰対象

1. 浄土宗寺院・教師
2. 浄土宗教師・寺族が代表(中心的な役員)を務める団体

## ◆選考方法・表彰

浄土宗平和協会が選定する平和賞選考委員会によって選考し、浄土宗平和協会総会の席上、表彰し副賞を授与します。

## ◆募集方法

1. 公募(自薦他薦問わず)
2. 教区長、教化団長、教化センター長、並びに浄土宗平和協会会員による推薦
3. 選考委員推薦

## ◆応募・締切

応募の締切は平成22年2月末迄です。

社会参加のお寺を支援し、顕彰する「浄土宗平和賞」(JPA主催)の推薦締め切りが、来年2月末日に迫っています。本年度から、副賞が50万円に増額されました。推薦者は、浄土宗平和協会会員並びに、各教区教区長、教化団長、地方教化センター委員長で自薦他薦を問いません。

◆以下の団体は、昨年度平和賞推薦団体で、昨年度推薦委員会で、投票の結果、得票がありましたので、本年度も推薦委員会で平和賞候補として審議されます。

- ①子どもたちの居場所 寺's軍団  
西居院・廣中崇順 三河教区 福祉・不登校児支援
- ②NPO法人ユニ  
遠藤暁及 京都教区 国際協力、国内被災支援
- ③一心寺  
高口恭行 大阪教区 芸術・まちづくり・国際交流・環境
- ④つきかげ堂  
福井 純史 京都教区 国際交流
- ⑤平和を願う僧侶の会  
若麻績敬史 長野教区 国際平和活動
- ⑥ぞうさんのいえ  
森下 慎一 東京教区 福祉支援
- ⑦おさかなの家  
山田 智之 東京教区 福祉支援

- ⑧NPOグローバル・ヒューマン・サポーターズ  
本多 義敬 東京教区 留学生支援・国際援助
- ⑨パネルシアター  
武智 公英 東京教区 国際交流
- ⑩圓福寺  
池田 常臣 埼玉教区 地域活性化活動

## 《応募先／お問合せ》

浄土宗平和協会事務局 担当: 富永  
〒605-0062  
京都市東山区林下町400-8  
浄土宗人権同和室内  
TEL: 075-525-0484・FAX: 075-531-5105  
E-mail: jpa-info@jodo.or.jp

## 社会参加するお寺の活動紹介

### 共生・地域文化大賞

法然上人800年遠忌記念事業「第3回共生・地域文化大賞」採択式典が、去る10月26日に総本山知恩院大殿で開催、坪井俊映下より、大賞のNPO法人「北九州ホームレス支援機構」に奨励金150万円が贈呈されました。

同賞は同宗の宗祖法然上人800年大遠忌の記念事業の一環として一昨年に創設されたもので、NPO法人やボランティア団体などが取り組んでいる多彩な地域活動を顕彰するとともに、寺院が積極的にそれらの活動に学び、参加して協働モデルを模索することを促すことが目的。今年度からは従来の表彰部門に加えて新機軸として助成部門、

アイデア・企画部門が新設されました。全国から寄せられた152件の応募の中から、厳正な審査の結果(審査委員長・堀田力さわやか財団理事長)大賞のほか、3つの団体に共生優秀賞が授与されました。

同賞の運営委員長を務める秋田光彦師(大阪教区・大蓮寺住職)は「今回から地域文化活動を進める上で、仏教寺院と一緒に実施したいアイデア・企画を募集しましたが、じつに一般部門には1622件、中学生以下の部門には593件の応募が寄せられました。とくに目立つのは子ども一時預かりや寺子屋、地域の子どもと高齢者の交流事業、高齢者の生きがいづくり企画、寺院によ

るカフェやランチサービスなど、新鮮なアイデアで、地域に根付いたお寺文化の潜在的可能性を感じました」と述べました。

浄土宗ではNPO法人やボランティア団体との協働による既存の枠組みにとらわれない取り組みの創出など、寺院を地域社会との新しい「対話」と「交流」の場とする「お寺『共生堂』事業」の推進を検討しており、今後の展開が期待されます。



坪井下より大賞を授与

## 私

### も浄平協会員

大本山増上寺執事長  
楠美知仁師



今回の「私も浄平協会員」は、大本山増上寺執事長の楠美知仁師です。

昨年のブックギフト授与式にも立ち会っていただき、祝辞を述べていただいた楠美執事長。浄土宗平和協会に対して、宗の将来像をも見据えた深い視点からのご期待をお話しいただきました。

公益活動を行っている浄土宗平和協会が、浄土宗にとって重要な役割を担っているという認識が以前からあり、平和を目指し、広めていく活動に何か協力ができるのではないかと、と会員になりました。

混沌とした世の中で、宗教が、また僧侶が担うべき役割は数多くあるはずですが、「平和、共生、みんなのために」という浄平協の崇高な精神は、浄土宗が教団として目指すべき理念であると感じると共に、その活動は一人ひとりの僧侶が公益活動に参加するきっかけを作っているのでしょう。ただ、大切なのは各々人が参加するだけでなく、自発的な行動へと発展していくことだと考えます。

昨年、ブックギフトの授与式にも参列いたしました。私費留学生たちの真摯な態度、向学心に立ち満ちた表情には感心しました。と同時に、この学生たちに本をプレゼントするという事業を発起した浄平協に

は、感服しました。

この事業は、単に本を差し上げるだけでなく、浄土宗の「心」を差し上げているのだと思います。それは必ずや留学生たちの「心」にも届いていて、彼らが自国に帰った後、そのことを母国で語り継いでくれるのだろうと思いました。その「心」が全世界的に広がれば、それこそが「平和」ということにつながっていくはずだと思います。

世はグローバル時代。伝統教団といえど、世界的な視野で物事を考えることが大切です。浄平協は、公益活動を通じて、宗内でグローバルな視点での活動を行う先駆者であってほしいと願います。今年からは、浄土宗保育協会、浄土宗児童教化連盟と連携を始めたと聞きます。宗内には、その他にも浄土宗芸術家協会など、公益活動を行う団体がありますが、それらの団体と共に、国内だけでなく、世界的な活動へと展開していけることを期待しています。

混迷する現代社会に対し、われわれ浄土宗は何を放つ存在であり得るのか。法然上人の説かれた「愚者の自覚」に立ち返って、肥大する数々の課題をどのように向き合うことができるのか。国際的な活動を展開される遠藤師にご寄稿いただきました。

# 催涙弾を受けて知る パレスチナの涙

石見教区和田寺住職  
念仏サンガ/NPOユニ代表 遠藤 暁及

気がついたら、イスラエル兵の撃つ催涙弾の下を逃げ回っている僕がいた。気がついたら、路上でボランティア指圧をしている僕がいた。彼らは、イスラエル警察に自宅を追い出されたパレスチナ人家族だった。どちらの時にも涙が流れていた。それは、パレスチナ人たちが流している涙だった。悲しみ、悔しさ、怒り……。 “どうして、人が人に、そんな非道なことができるのか？ まさか、こんな理不尽なことが、行なわれていたなんて……。” これらは、僕が、パレスチナにいる間、何度もつぶやいた言葉だ。パレスチナで僕は、やり場のない怒りをもてあまし、いくども空を見上げていた。

## ■中東の実体

これまでイスラエルには、湾岸戦争の年から数えて、9回ほど行ってた。しかし、パレスチナに足を踏み入れたことはなかった。行こうとしても、イスラエル人に止められていたからだ。そして、恐ろしい話ばかり聞かされていた。

“パレスチナ人たちは、皆んなテロリストだ。奴らは気の狂った恐ろしい連中だ。エルサレムに行くと、外国人は殺される。”

なるほど、それは、一般のメディアが流しているパレスチナ人のイメージと、さしてかけ離れたものではなかった。だから、それがプロパガンダ（宣伝）によって作り上げられたイメージだったとは、その時の僕には知るよしもなかった。

「事実は小説よりも奇なり」である。僕はパレスチナに実際に行って、この目で見て、そしてはっきりと知った。世界で流れている中東ニュースが与えるイメージの多くが、でっちあげだったということ……。加害者とされた人々は、実は被害者だったのだ。

本で読んだだけでは、中東の実態はわからなかった。やはり何ごとも、自分で体験してみなければわからないものだ。それにしても、僕が見た範囲ですら、実際に起こっていることは、想像をはるかに超えていた。

## ■報道のウソ

例えばあなたの家にヤクザが押しかけて来て、あなた

たち家族を銃で脅し、追い出したとしよう。

追い出されるにあたって、娘さんは殴られて前歯を折られ、奥さんも肩をねじ上げられた。（この部分は、僕自身が行った聞き取り調査によるもの）武器を持っていないあなたたち家族は、こうして、やむなく家を出た。畑もヤクザに奪われた。

しかし、お父さんとしては、このまま泣き寝入りするわけにはいかない。と言っても、せいぜいできるのは、石を投げつけることぐらいだ。

石を投げた結果が、どうなるか？。催涙弾を撃たれる。小銃で撃たれることもある。戦車が来ることすらある。妻は負傷。幼い方の娘は死んだ。血気盛んな息子は、“明日も村の皆んなで怒りの抗議に行く”という。

しかし、石を投げた罪であなたはイスラエル兵に逮捕され、刑務所に拘留されるかも知れない。あなたは、なすすべもない。“一体、俺たちが何をしたって言うんだ!?”と地面をかきむしる。

僕は不思議である。どうしてこんな状況を、イスラエルとパレスチナの「紛争」とか「対立」という言葉で報道するのだろうか？ 一方的に奪う者と、奪われる者という関係があるだけなのに。パレスチナはイスラエルの占領下にあるのだ。

## ■入植者と分離壁、そして検問所

ある日、あなたの家の近くに高さ8メートルもの壁が建築されたらとしよう。その壁は、延々と続いている。それは、単に見通しが悪くなっただけではない。

あなたは、もう自分の畑に自由に農作業に行くことができなくなったのだ。もはや生活の手段はない。畑は奪われたのだ。

一体誰が何のために、こんな壁を建てたのか？ イスラエル人の入植地ができたためである。イスラエル政府は、入植者の治安のためという名目で分離壁を建設し、入植地には兵士がいて、入植者も銃を持って構えている。

土地を奪われ、生活の手段を失ったパレスチナ人たちが抗議のデモに行く。すると、イスラエル兵は催涙弾をぶっ放す。またイスラエル兵は、深夜に村を襲撃し、デモに参加した若者を逮捕しに来る。

一方の、イスラエル人入植者たち。ユダヤ教原理主義者が多い。彼らの行為は異常である。信じられない話の数々である。

牛の世話をしているパレスチナ人の家族の所に、突然、車でやってきて、おばさんを棒でめった打ちにする（この映像は、Youtube「入植者パレスチナ」で検索し見ることができる）。

通学中のパレスチナ人たちの子供たちを殴る（このため、キリスト教の団体が、子供たちを守るために、集団登下校の引率をしている）。

家を売ってくれとやって来て、断ると家に火をつけ給水塔を壊し、抵抗した家族を殺す（僕は、そこの子供に、実際、家を見せてもらった）。

ひそかに夜中に侵入し、オリーブの木を切り倒し、家畜を殺す。

しかも殺人を犯しても農場を荒らしても、犯人のイスラエル人は逮捕されない。たとえ被害にあっても、パレスチナ人は泣き寝入りするしかない。

また、場所によっては、学校に行くのにも通勤するのも、毎日、検問所を通過しなければならない。

しかも、通過はイスラエル兵の気分次第だ。時には、何時間も平気で待たされ、食事もできず、家に帰れない。救急車ですら止められ、助かるはずの人が死ぬことだってある。

人間の尊厳など、当たり前のように踏みじられている毎日だ。占領され、支配され、自由を奪われるとは、そういうことだ。

## ■NPOユニとしての活動

ここでざっと、8月6日～17日間の活動等について述べておきたい。

遠藤 暁及（えんどう りょうきゅう）  
10歳より13歳まで、ニューヨークで暮らす。日本指圧専門学校卒、中央仏教学院卒（通信）。その後、浄土宗の僧籍に入る。  
1991年頃より、北米、ヨーロッパ、中東、オセアニア等の世界各地で、タオ指圧の講習、念仏ワークショップ等を行なう。その足跡は、現在、世界8カ国にネットワークを持つ、念仏サンガ/NPOユニとなる。

タオ指圧の創始者としては、「気心道」（だいわ文庫）、「く気と経絡く癒しの指圧法」（講談社+α文庫）等、数冊の著書がある。  
一方、音楽家としては、「ウォーター・プラネット」（ラ・イアル・ワトソン推薦版）など、5枚のCDアルバムがあり、テレビ・ラジオ等でオンエアされている。  
ウェブ：www.taosangha.com。



まず、2日間の「イスラエル・パレスチナ平和会議」に参加し、“気と心のワークショップ・仏教カウンセリング”の講習を行なった。

その後、ナブルス難民キャンプに行き、日本アラブ未来協会の田中氏を手伝う。また、かつて虐殺があったとされるジェニン村にも行く。

ヘブロンに移動し、理学療法協会で、「タオ指圧講習」を行なう。

さらに、ビリン村に行き、分離壁の抗議デモに参加。イスラエル兵の撃つ催涙弾の下を逃げ回り、涙の中でパレスチナ人のくやしさを想う。

東エルサレムに滞在。不当に自宅を追い出され、路上生活をしている家族を訪ねる。聞き取り調査と、路上でのボランティア指圧をする。

西エルサレムでは、イスラエルの人権団体を訪問（彼らは、イスラエルによるパレスチナ人の家の破壊に反対している）。この団体が主催する、破壊された家を回るツアーは、満席で断念。

最終日。家の破壊を、イスラエル警察に宣告されている80家族の住む地区を、他の支援者と共にパトロール。その足で、飛行場に向かう。

## ■パレスチナの非暴力抵抗運動

帰国後は、Tシャツ製作のプロジェクトを準備し始めた。パレスチナ人＝テロリストというイメージを払拭するためだ。デザインは、ガンジーの肖像画と「パレスチナ非暴力の抵抗運動」という英文字。また、これを現地で製作し、彼らの仕事にもなればと思う。

Tシャツは、海外からのデモ参加者に配ったり、支援者に買ってもらったりする。世界の人々に見てもらいたい。

また、これの販売による収益は、パレスチナの村の活動資金になる。パレスチナ人活動家たちともコンタクトを取って進めているが、彼らもこのプロジェクトを喜んでいる。

余談だが、このプロジェクトを始めることができたのは、“坊ちゃん”というあだ名の古い友人より、Tシャツ制作のために、寄付の申し出があったお陰である。

“坊ちゃん”とは、ずっと、はるか以前、インドを貧乏旅行している時に知り合った。ガンジス河沿いにある、一泊500円もしない同じ安宿で、お互い何週間もウロウロしていた仲である。

縁とは不思議なものだ。今回、パレスチナのTシャツ・プロジェクトのために、彼と20年振りで会った。すると

坊ちゃんは、いつの間にか“社長”に変身していた。でも、気持ちは相変わらず“熱い”。坊ちゃんは、やっぱり友だちだった。

## ■各自ができる何かを

パレスチナでは、信じられないような非道なことが行なわれていた。しかし同時に、信じられないような、人間の優しさにも数多く出会った。

“いい匂いだね”と誉めただけで、売り物のパンをくれるパン屋の少年。旅人にお茶をごちそうしてくれる、屋台のお茶屋の兄ちゃん。

田舎道を歩いていると、“どこまで行くだい、送って行くか?”と声をかけてくれる仕事帰りの家族。僕はパレスチナほど、安心して旅したところはない。

そして、優しかったのは、パレスチナ人たちばかりではなかった。

海外から、多くのパレスチナ支援者がやって来ていた。彼らは優しく、気負いもなかった。

そして、危険を伴うデモに参加し、路上でパレスチナ人家族たちと共に寝起きしていた。村で深夜のパトロールをし、逮捕されることも恐れず、イスラエル兵からパレスチナ人たちの人間の尊厳を守ろうとしていた。

虐げられた人々の役に立ちたいという、共通の想いを



難民を路上で治療する遠藤さん（東エルサレムにて）

持っているためだろうか、パレスチナでは、海外から来た支援者と、すぐに友だちになることができる。

僕は日本の皆さんに、特に熱い気持ちのある人に、ぜひこんな世界もあるのだということを知ってもらいたいと思った。

そして、できれば、現地に足を運んでもらいたい。また、多少の危険は伴うが、デモにだって参加してもらいたい。人々の苦しみを肌で感じ、その現状を変えるために何かをして頂けたら……と切に想い、またそう願う。

その瞬間、“自分はたしかに生きている”と感ずることができるから。

次第、すべての希望者に参加いただけるよう、努力をしている。ツアーでは、パチカン、修道院研修のほか、ローマ、フィレンツェ、ベネチア、ピサなどを訪れ、観光を楽しむ。

料金は28万円(浄平協会員)、29万5千円(一般)。すでに申し込みを締め切った。



パチカンのサンピエトロ寺院

## 第5回スタディーツアーは2月に開催

浄土宗平和協会は、平成22年2月23日から8日間、恒例のスタディーツアーを行う。

第5回の今回は、JPA副総裁で大本山光明寺法主の宮林昭彦台を団長に、キリスト教ローマカトリックの中心パチカンを訪れ、ローマ法王に謁見するほか、カトリックの修道院を訪問、厳格に修行をしている修道士の信仰を学ぶ。カトリックの「諸宗教の対話プロジェクト」の協力。

このほど、宗報などで平和協会会員ならびに全国の浄土宗御寺院に参加者を募ったところ、40人を超す参加者に恵まれた。またパチカン側の受け入れ体制の連絡待ちで、参加待ちの参加希望者もあり、ローマ法王庁側の体制が整い

# ス マトラ島沖大地震に緊急支援・募金を行う

## —268万円の浄財が寄せられる

浄土宗平和協会(JPA)は10月、インドネシア・スマトラ島パダン市沖を震源とする9月30日に発生した大地震(M7.6)に対する災害に対し、発生後ただちに平和念仏募金の基金から緊急支援金として50万円を、世界仏教徒連盟(WFB)を通じ被災した現地の仏教徒に届け、また被災者が数千人とも言われるこの災害に対し、緊急募金を全国の浄土宗の御寺院に呼びかけた。12月3日段階で268万円もの募金が寄せられ、今後さらにWFB、仏教NGOネットワーク(BNN)を通じ支援をする予定。

この災害は、死者739人、行方不明者296人(10月8日インドネシア政府発表)で、国連や国際赤十字社の調査によると、被災者は数千人ともいわれる。現地の道路網は寸断され、水、食糧などの必需品も不足しているという報道が続いた。浄平協は、全日本仏教会



地震直後のスマトラ島の様子。被災者の救出が続く。

を通じ、WFB国際救援基金のインドネシアセンター(華人、華僑系の仏教徒などが加盟)を通じ、現地の被災者、特に仏教徒に確実に手渡せるよう支援を行った。10月末に平和協会会員、11月初旬に全国の浄土宗寺院に呼びかけ多くの浄財が寄せられた。今後、WFB、BNNを通じ、浄財を

現地に届ける。浄平協は、緊急を要する災害、戦争被害などに対して、基金から緊急支援を行えるよう昨年細則を改正した。緊急募金を行った後に、募金額に見合う支援を再度行う制度になっている。基金を取り崩して支援を行った初めてのケースとなる。

## 滋賀教区支部設立に寄せて

浄平協常任理事・山川正道

平成21年4月11日、ホテルボストンプラザ草津において、滋賀教区支部の設立総会が開催され、いよいよ浄平協初の教区支部がスタートしました。総会には、住職、教師、寺庭婦人、檀信徒など約60名が参加、来賓として里見法雄宗務総長、小泉顕雄、小林正道両浄平協副理事長にもご列席をいただき、期待の大きさをひしひしと感じました。

浄土宗平和協会として再スタートしてすぐ、役員会では会員拡充が課題として取り上げられましたが、私はそのためには会の組織の活性化が不可欠だと思っていました。

「支部を教区に置くことができる」との会則第2条に目をつけ、教区支部設立を推進することが、浄平協の発展、また会員の拡充にもつながると考え

ました。滋賀教区選出の宗議会議員を務めていることもあり、親しい仲間呼びかけられたところ、思いのほか順調に話が進み、いよいよ支部設立へと動き出しました。

支部設立には、会員が活動の当事者になるというメリットもあると思います。今までは、活動に参加者として関わることはあっても、当事者にはなり得ない。支部活動を推進することで、支部会員が、僧侶としての地域社会に果たすべき役割を再考するきっかけにもなるのではないのでしょうか。

嬉野俊雄滋賀教区長を支部長に、現在約50人の支部会員と共に活動をスタートさせましたが、本部と支部の会費が重複し負担が大きいことなどの課題がありますが、少しずつ理解を深めていただくことが肝要と考えています。

これをきっかけに、全国の教区でも同様の動きが加速することを願っています。

# 子どもたちの笑顔が紡ぐ 未来への希望

日本国際ボランティアセンター (JVC) は、アジア・中東・アフリカの10の国・地域で支援活動を行っている国際協力NGOです。浄土宗平和協会では、2003年から、ラオス・カムアン県での継続的な農業および森林管理プロジェクトを支援してまいりました。今年度は、新たなプロジェクト「紛争地における子どもの栄養支援 (パレスチナ・ガザ地区)」に対する支援を実施しています。

ガザ地区で、JVCは、子どもの栄養改善事業を行っています。そのプロジェクトの概要を、現地スタッフのレポートを交えながらお伝えします

## ガザ地区の現状は

ガザ地区は、長引く占領・紛争のなか1967年のイスラエルによる占領以降、最悪の状況に陥っている。国連は、過去40年で最悪の人道状況とのレポートをまとめた。ガザ地区への物や人の出入りは厳しくイスラエルに制限され、最低限の人道支援物資しかガザ内には入らない。約150万人の住民の内の8割以上は、国連やNGOなど

から食料援助に頼る生活を強いられている。子どもの栄養失調は、最も深刻な問題の一つにあげられる。09年12月末から4週間に及ぶイスラエル軍の攻撃により、1300人以上が死亡、多くのインフラも破壊され、状況は更に悪化した。

厳しい封鎖の影響は、産業にも深刻な影響を与えており、ガザの産業は98%が稼動しておらず、多くの人々が現金収入のない生活を送っていると

言われている。

◆  
ガザ市ゼイトゥーン地区にあるザヘル幼稚園。JVCはこの幼稚園の子どもたちに対し、鉄分とビタミンが強化された牛乳とビスケットの支援を行っています。

この幼稚園に通う子どもは130人。この地区にある幼稚園はこのザヘル幼稚園だけなので、多くの子どもたちが徒歩では通えない場所からバスで通ってきます。バスでの通園には往復で月40NIS (約1,200円) かかるそうです。幼稚園の学費は月30NIS (約900円)。学費ですら払える子どもたちは少ないというので、遠くから通ってくる子どもたちはさらに大変です。

◆  
園長先生は、「子どもたちのお父さんは封鎖が厳しくなる前はイスラエル側で仕事をしていた人が多かったけれども、今は仕事に出ることはできないし、ガザの工場で働いていた人たちもほとんどの工場は閉まってしまい、仕事を失った人が多い。今は、仕事があるとしても道路工事などの日雇いで、それも仕事がない日のほうが多いわ」といいます。



破壊された建物が目立つラファ (写真提供: 日本国際ボランティアセンター)

## 持続可能な支援を

JVCは2003年より、米国NGOのANERAとイギリスのNGOのイスラミック・リリーフと共同でガザの幼稚園児に栄養強化牛乳と高栄養ビスケットを配布してきた。

JVCはこのプロジェクトの中で、幼稚園児約350人を直接支援しており、このプロジェクトは順調に規模拡大を続け、2006年度にプロジェクト全体の対象園児数は2万人を越えた。支援は栄養改善だけにとどまらず、この支援の効果が持続可能なものとなるように、幼稚園の子どもたちや先生、お母さんたちへの栄養・衛生教育プログラムも行ってきた。

◆  
また、提供している牛乳や高栄養ビスケットは、ヨルダン川西岸地区で生産されたもので、子どもたちの栄養になると同時に、それらの産業に従事する人々とその家族を支え、壊滅状況にある自治区の産業の活性・維持の一助となっている。

◆  
ガザの厳しい現状の中、その活動へのニーズは高まっている。

◆  
JVCが2007年9月から栄養強化の支援をしている幼稚園にウム・エル・ナセル村の幼稚園があります。今日はバナナ味の牛乳パックを配りました。一人も残さず一気に飲んでくれました。子どもたちは毎日の牛乳とビスケットが大好きようです。

◆  
しかし、冬だということに多くの子どもたちはサンダル履きです。寒くないのか心配になります。実はウム・エル・ナセル村の住民は、もともとは羊などを放牧し、それで生計を立てていた遊牧民族です。パレスチナ自治政府は彼らに土地を提供し、定住させてきたのがこの村です。比較的新しい定

浄平協の「平和念仏募金」は、世界のこんなところで活用されています  
浄平協が支援するその他のNGO (平成21年度/順不同)

## ●パレスチナ子どものキャンペーン

パレスチナの子どもたちへの人道的支援を続けるNGO。浄平協の支援は、パレスチナ難民キャンプの子どもたちの教育支援として、補習クラスの教材費、指導員の人件費に充てられる。

## ●反差別国際運動 (IMADR)

世界から一切の差別撤廃を目指す国際NGO。インド・ダリット子どもデイクアセンター・プロジェクトを浄平協が支援。デイクアセンター6軒分の運営費用、デイクアセンター1軒分の新規建設費用に充当。

## ●シヤンティ国際ボランティア会 (SVA)

アジアにおける教育・文化活動を通じて平和な社会の実現を目指すNGO。浄平協の支援は、ミャンマー (ビルマ) 難民キャンプにおける図書館活動として、カレン語の絵本印刷費 (1タイトル)・図書館運営費・スタッフ人件費の一部に充てられる。

## ●ジユマ・ネット

チッタゴン丘陵地帯の平和づくりを目指すNGO。浄平協の支援は、チッタゴン丘陵地帯カグラチャリ県紛争被害を受けた青少年への教育支援として、教育支援 (奨学金配布費用)、紛争被害者支援のための調査活動等に充てられる。

住地は道路も舗装され、きれいに見えます。しかし、新しい村では家畜を飼うことはできず、大人たちは日雇いで生活費を稼いでいたものの、いまではほとんどが失業しています。

◆  
この村にある唯一のクリニックを運営している現地NGOに、ここの子どもたちの5歳以下のなんと4人に3人は貧血だというショッキングなニュースを聞きました。JVCはこの子どもたちの栄養状況を改善するために、この村の幼稚園を支援することにしました。毎日ビタミンと鉄分を強化している牛乳とビスケットを食べて、子どもたちの貧血が治ることを期待しています。

◆  
このプロジェクトは、貧困にあえぐガザで、正常な成長のために最も栄養が必要とされる5歳児を中心に栄養補助をすることが目的だが、同時に配布する牛乳やビスケットの現地生産を手助けし地場産

業を支えるための努力も行っている。地域社会で助け合う文化が強いパレスチナ。厳しい状況の中にあって、地域の中で人々が助け合っていくことがますます重要で、その仕組みをいかに再構築するのかが、今後の支援の課題となる。

◆  
貧困地区にある幼稚園の支援を通じて、JVCが行う活動は多岐にわたる。地域の人々、子どもたちの傷ついた心を癒すのは簡単ではないが、今日子どもたちが見せてくれた笑顔が、平和な未来へと続くことを願う。



牛乳を飲む子どもたちと先生 (写真提供: 日本国際ボランティアセンター)



## 会則・会計を検討——JPA専門委

浄平協(JPA)の専門委員会が、設立され、会員制、会員急増、支部設立など大幅な環境の変化にふさわしい会則・会計方法の見直しを検討している。

専門委員会設立は、本年度の総会の議論を経て、10月15日に第1回、11月25日に第2回が開催された。専門委員は、荻野理事長、小林副理事長、小泉副理事長、川副事務局長ほか、会員から新谷仁

海さん(東京教区)、香林浩道さん(大本山清浄華院執事)。事務局から宗務庁富永俊之(人権同和室課長)が出席した。

本年度中に、会則の会議や役員規程、支部の取り扱いなどや「平和念仏募金」に関する細則、会計の運用方法など、名実ともに浄土宗の公益性のある教化団体として、現実に即した改正を行う予定。

## 「共生こども連絡会議」設立

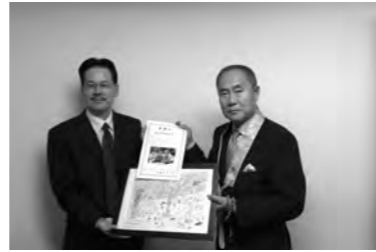
浄土宗の三つの公益教化事業団体が連携を取り、共同事業などに乗り出す。10月7日、宗務庁(東京)で、浄平協と浄土宗保育協会、浄土宗児童教化連盟の3団体が連絡会議を始めて開催し、3団体による「共生こども連絡会議」設立について合意した。

3団体から、それぞれ理事長、事務局長、里見嘉嗣(社会国際局長)らが出席して、今後の方針について検討した。会議の名称を「共生こども連絡会議」とし、3団体が緊密に連絡を取り合うことを確認。会議の活動を表すコピーにつ

いて「いのち やさしく」とすることとした。

また議長を平野仁司(浄土宗児童教化連盟理事長、書記長)に川副春海(浄土宗平和協会事務局長)を選任した。具体的な活動内容について、出席者より、共通のポスター制作、共通のこどものための平和教材、教化グッズの制作、研修会の講師の相互紹介、研修会の共同実施、研修旅行の共同実施などの案が出され、検討を行うこととなり、他の教化団体へ、積極的に参加を呼びかけることを確認した。

## シヤンティより感謝状



浄平協(JPA)は10月7日、NGO支援を行う国際NGO(社)シヤンティ国際ボランティア会から感謝状を贈呈された。

同会のミャンマー難民事業担当のディレクター小野豪大さん、神崎愛子さんが、宗務庁東京事務所で、荻野理事長に感謝状、ならびに難民キャンプの子どもたちによる絵画を手渡した。また、浄平協が支援している同会難民キャンプ図書館活動の実情などが説明された。

浄平協は、平成18年度より図書館運営費、絵本印刷費などを支援、本年度は平和念仏募金から70万円を拠出している。



## 浄平協正会員数 300人(件)を越す

浄平協(JPA)の正会員数が本年度300人を越すことが明らかになった。正会員数は、11月末段階で326人、檀信徒や関係団体による賛助会員は30件。

浄平協は、平成2年に浄土宗平和協議会として設立、同18年に会

員制を採り浄土宗平和協会として再出発した。浄土宗教師、寺族による正会員は、会の活動のご理解を得て着実に増加し18年度143人、19年度223人、20年度277人となった(決算ベース)。このほど行われた理事会で本年度の正会員数が11月段階で、326人と報告された。

浄平協は当面、正会員500人を目標に、宗内の各種団体、会議などで会のPRを行い、会の活動にご理解をいただき、さらなる会員獲得を目指す。

## 増上寺「よい子の集い」に参加(平成23年)

平成23年4月に大本山増上寺で、法然上人800年御忌を奉賛して行われる「法然さまをたたえるよい子の集い」に浄平協(JPA)も参加する。

この催しは、宗内の児教連、保育協会、スカウト協議会、ブロック青年会なども参加して、23年4月9日に増上寺で開催予定。このほど実行委員会の会合が行われた。大殿で法要法話を行うほか、パレードや境内で各種イベントなどを行う。

浄平協は、子どもたちに平和の重要性を知ってもらうため担当ブースを設け、浄平協が支援している国際NGOなどとともに、平和のためのパネル展示や、子どもたちとともに、遊びの要素を取り入れたワークショップなどを行う予定。

## ブック・ギフトで留学生にアンケート

私費留学生に希望の書籍を

プレゼントするブック・ギフトin Tokyo(浄平協主催)の書籍贈呈式が、11月29日大本山増上寺で行われたが、浄平協は、今後の同活動の指針とするために、参加の留学生に対し、アンケートを行った。

回収31件の内、24人の学生が生活費のためにアルバイトをしていると回答するなど、円高の日本

で生活資金の調達に苦労している実態を反映している。また、ブック・ギフトの活動は、回答者のほとんどが、大学の掲示板、留学生担当課から知ったと答え、各大学事務局にも理解をいただいている実態が明らかになった。浄平協事務局で内容を詳しく検討して、今後の活動の参考にす

## JPA東京事務局より

報告●浄平協事務局・斉藤隆尚

大学に案内を発送してから6ヶ月あまり、11月29日「第2回ブック・ギフトIN TOKYO」図書授与式が、東京の増上寺で行われ、留学生に無事図書を渡すことができた。希望の図書を頂き、それぞれがうれしそうな顔をみせる。図書も自分の勉強のためや趣味のものなど様々である。留学生には大切な物となるに違いない。将来はきっと日本と母国を繋いでくれる一人になってくれるであろう。スタッフも安堵の顔を見せる。今回お手伝いをいただいた鍵小野さんはじめ、皆さんお疲れ様でした。

振り返ると1年はあつと言う間に過ぎていく。年齢が増すと時間の感覚が早くなってくると言われるが、このところ特に実感する。

『ジャンネの法則』というものがある。19世紀のフランスの心理学者・ピエール・ジャンネが紹介した法則のことである。主観的に記憶される年月の長さは年少者にはより長く、年長者にはより短く評価されるという現象を心理学的に解明したものである。簡単に、人間が生きているある時期の時間の心理的長さは、年齢の逆数に比例する(年齢に反比例する)というものである。

つまり、50歳の人間にとって1年の長さは人生の50分の1ほどであるが、5歳の人間にとっては5分の1に相当する。よって、50歳の人間にとっての10年間は5歳の人間にとっての1年間に当たり、5歳の人間の1日が50歳の人間の10日に当たることになるというのである。ひとつのとらえ方ではあるが、毎年同じ仕事をして、同じにこなそうとすると、その時間の感覚はだんだん足りなくなるといふことで、つまり忙しくなるという訳になる。

「今年ももう終わりか」とつぶやいたら、あなたもそんな歳なのです。事務局スタッフも二人の方にお孫さんが誕生しました。おじさんですね。おじいさんと呼ばれると、よけい時間の経つのが早くなりそうです。もう次のブック・ギフトの準備もスタートしました。来年も良い年でありますように。

## 私たちはJPAを応援しています!!

——平成21年度賛助会員(法人会員)一覧——

- (株)イーエス商会
- (株)ビーエス観光
- (社福)花川戸保育園
- (有)古島法衣店

- (株)多胡石材産業 前橋支店
  - (株)大友建設
  - (株)島津法衣佛具店
- H21年11月現在



## 浄土宗平和協会（JPA）



### 会員募集

国や信条を超え、「平和」という人類共通の理念のために、志を同じくする人々による連携をめざす継続的なネットワーク運動として、浄土宗平和協会は会員を募集しています。入会希望、問い合わせは下記事務局へ。



ピースウォークに参加する子どもたち「エルサレムにて」  
(提供：NPOユニ)

### 【入会要項】

浄土宗平和協会（JPA）の活動にあなたも参加しませんか？

#### 正会員

対象……浄土宗教師・寺族  
会費……年間10,000円（一口）

#### 賛助会員

対象……檀信徒、企業や宗教法人以外の団体  
会費……檀信徒会員 年間 2,000円（一口）  
法人会員 年間 10,000円（一口）

正会員は、入会時に「私たちは平和を祈念します」と記された会員プレートを贈呈します。賛助会員は、応援に感謝を込めて、会報ダーナに芳名を掲載します。正会員、賛助会員は、スタディーツアーに割引料金で参加できます。



### 平和念仏募金のご協力をお願い

平和念仏募金は、各NGO団体への援助、私費留学生に希望図書を贈呈するブック・ギフト活動、社会参加するお寺を顕彰する浄土宗平和賞などの活動に充てられます。恐縮ではございますが、何とぞご協力賜りますようお願い申し上げます。

- ◆平和念仏募金は、浄土宗劈頭宣言にある患者の自覚に立ち返り、「世界に共生」する平和・環境・福祉・人権などの諸問題に取り組むための募金です。
- ◆①世界の人々に役立つ、②共に学びあう、③社会にアピールする、④新たな人材を発掘・要請する一の方針のもと、国

際的に活躍するNGO（非政府組織）を支援しております。  
◆私費留学生希望図書支援「ブック・ギフト」事業を行い、留学生へプレゼントした書籍の購入費として役立たせていただきます。

### JPA 浄土宗平和協会4つ活動

- 1 平和念仏募金運動
- 2 ブックギフト事業
- 3 浄土宗平和賞
- 4 平和アピール

#### 浄土宗平和協会役員・スタッフ

理事長……荻野順雄	専門委員……戸松義晴
副理事長……小泉顕雄	茂田真澄
小林正道	参 与……長島善雄
常任理事……橋田邦俊	監 事……梶谷正道
石上源應	塩竈義明
山川正道	○
深谷雅子	事務局次長…服部光雅
理 事……渡辺成就	事務局……中野隆英
金田進徳	杉浦靖俊
加用稔子	齋藤隆尚
事務局長……川副春海	鍵小野和敬



#### お詫びと訂正

ダーナ14号に添付しました会員名簿のなかで間違いがありました。「《個人会員》東京教区芝組妙定院小林悖道、出雲教区隠岐組莊楽寺宮谷清宏、福岡教区東筑組安養寺塩次一行」「《ミャンマーサイクロンなど募金者名簿》茨城教区猿島組西方寺」。以上のように訂正し、お詫び申し上げます。

ご希望の方には詳しい案内の掲載された協会のパンフレット（入会用振込用紙つき）を郵送させていただきますので、協会までご請求ください。

#### 浄土宗平和協会（JPA）

〒605-0062 京都市東山区林下町400-8 浄土宗人権同和室内  
電話075-525-0484 Fax075-531-5105 メールjpa-info@jodo.or.jp  
郵便振替口座【01020-5-16369 名義：浄土宗平和協会】



平和、共生、みんなのために